

ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

リウマチ・膠原病科のご紹介



副院長
リウマチ・膠原病科部長 藤田 芳郎

当院にリウマチ・膠原病科ができたのは約3年あまり前でありました。多くの患者さんを近隣の先生方からまた時には県外の先生方からも御紹介いただき、心から感謝申し上げます。

当院でのリウマチ・膠原病科の特徴は、腎臓内科と協同して診療にあたっていることであり、腎臓の障害が初めに来ると原因は膠原病であったということも多く、そこから派生して当科ができた経緯があります。

膠原病は、多臓器に炎症を起こしてくる病気なので、感染症と同じような症状を呈し、初めは感染症と区別できないことも多いので、必然的に感染症の診療も同時に行なっています。そのためリウマチ・膠原病科と称しています。また全身病でありますので、呼吸器内科、整形外科、消化器内科、循環器内科、眼科、耳鼻科、口腔外科など病院のほぼすべての科と連携協力して診療にあたっています。

膠原病の多くの疾患は、最近の医療の目覚ましい進歩により、特に病気の初期に受診されると、普通の生活ができるようになりました。治療の進歩の一翼には、「生物学的製剤」という大雑把な総称で呼ばれている薬剤がありますが、古くからの薬剤も使い方によって、十分に効果を現すことも多いと考えています。現在、

世界で行われている高い水準のより良い診断・治療技術を常に取り入れて提供できるようアンテナを張り巡らせ、診療の内容を常に見直し、医療の透明性に力を入れ、院外の一流の医師のご意見も伺い、国内外の学会にも積極的に出席し最新の情報を取り入れるよう努力を続けて行く所存でございます。

最新の医療や一口にエビデンスといっても、それぞれの患者さんの人生に必ずしも合わないものもございます。それぞれの患者さんの人生に沿うような治療を、患者さんと話し合いながら探し、紹介いただいた先生方のご協力のもとで、患者さんに最も合った最善の医療を模索しながら提供するべく日々努力しています。

原因不明熱、関節痛、全身倦怠感、浮腫、尿検査異常、抗核抗体やリウマチ因子などの検査異常など、何か膠原病や感染症を疑うような症状徴候があれば気軽に当科にご紹介いただきたいと思います。来院される患者さんにも、かかりつけの先生がいらっしゃれば、その先生と十分に相談したうえでの受診をお願いしています。

先生方のご協力のもとで診療をさせていただいている日ごろのご厚情に感謝いたしますとともに、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

当院における耐性菌保菌患者の動向

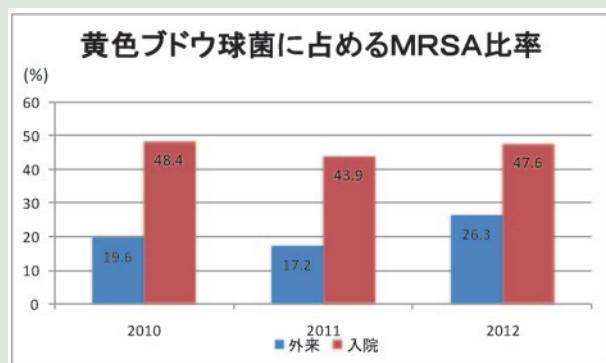
副院長
消化器内科部長 村瀬 賢一



日頃は地域医療連携などを通じて、多数の患者さんをご紹介いただき、また当院からも診療をお願いした多くの患者さんを引き受けていただき、誠にありがとうございます。今回は、最近の感染症領域の重要な課題の一つである耐性菌感染に関して、当院の最近の統計をご紹介しつつ、少し考察させていただき、先生方の日常診療のお役に立てれば幸いに存じます。

MRSA

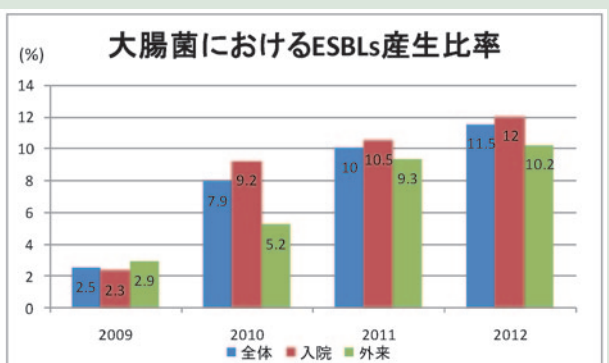
MRSAはわが国で「院内感染の耐性菌」として最も有名で、海外でも病院内の感染症と考えられていました。しかし1990年代以後、米国でそれまで健康であった入院していない人の間でも、MRSAによる重症の肺炎などが報告され始めました。その後、この市中感染型MRSAは、ヨーロッパ各国や日本でも報告事例が増加しています。当院でも入院患者からみれば低い比率ですが、最近3年間で、外来患者から検出された黄色ブドウ球菌のうちMRSAの比率は毎年、17~26%と決して低くありません。



ESBL s 産生菌

ESBL s は基質特異性拡張型β-ラクタマーゼの略称で、主に腸内細菌にみられる薬剤耐性機構の1つで、本来はペニシリンを分解する働きしかなかったβ-ラクタマーゼという酵素が、突然変異によりこれまで分解できなかった第3世代のセフェム系やモノバクタム系薬も分解できるようになって耐性化するものです。ESBL s 産生菌には肺炎桿菌、大腸菌、Klebsiella oxytoca など多数の菌種が含まれ、尿路系・胆道系感染症、呼吸器感染症などを起こし院内感染の原因にもなります。しかし当院の統計では、たとえば大腸菌のなかで、このESBL s 産生比率をみると、特に最近2年間は入院患者にさほど劣らず外来患者でも検出されています。

以上、代表的な耐性菌保菌者の当院における統計も、近年指摘されているように、耐性菌の主な拡がりの場は病院の中のみではなく、市中にも蔓延しつつあることを実証していると思います。



腱膜性眼瞼下垂 ～まぶたが下がると肩がこる!?～

形成外科部長 加藤 友紀



● まぶた（眼瞼）が下がると…

「まぶたが下がると肩がこる。」まるで「風が吹けば桶屋が儲かる」の話のようですが、これは信州大学の形成外科から提唱された**腱膜性眼瞼下垂症**という概念で、時折テレビなどでも報道されています。

● なぜまぶたが下がるのか

原因はいろいろあり、生まれつきの先天性眼瞼下垂、怪我による外傷性眼瞼下垂、老化による皮膚弛緩型・仮性眼瞼下垂、それから前述の**腱膜性眼瞼下垂**などです。**腱膜性眼瞼下垂**はコンタクトレンズを長期常用している方や、アレルギー性結膜炎などでよく眼をこする癖のある人に起こりやすいといわれていますが、年齢とともに重力で自然に下がってくる場合もあります。

● なぜ肩がこるのか

まぶたが下がると前頭筋を使ってまぶたを上げようと額に横じわができるようになります。さらに見えにくいのであごを突き出す姿勢をとり、肩から背中に広がる僧帽筋に負担がかかり筋緊張性頭痛や肩こりが生じてきます。

更にまぶたにはミューラー筋という交感神経支配の筋肉があるため、まぶたが下がると交感神経刺激信号が反射の受容器を通して脳に送られ全身の交感神経の緊張や覚醒刺激が1日中続

き、そのため不安や疲労感などの症状も生じます。

● 治療法

手術ははずれた腱膜を瞼板に縫いつける「**腱膜手術**」を行います。従来の「眼瞼挙筋短縮・前転手術」と違い、ミューラー筋を切り取らないことが特徴です。手術は局所麻酔で行い、約1時間で終了します。手術後は楽にまぶたが上がるようになるので、ミューラー筋が緩み交感神経の緊張が低下し症状が改善します。一重まぶたの人は二重まぶたになります。たるんだ皮膚は切り取るため、若々しくなります。

● 手術の副作用は

約1週間はかなりまぶたが腫れますので、営業関係の仕事や会合などは差し障る場合があります。また、頭痛や肩こりの原因が他にある場合は期待した効果が出ないこともあります。

原因不明の頭痛肩こりのある患者さんには、まぶたを見ていただき、少し下がっているようなら一度形成外科受診もご考慮ください。



第18回日本心療内科学会開催のお知らせ

心療内科部長 芦原 睦

第18回日本心療内科学会総会・学術大会を下記のごとく開催することになりました。心療内科関連の単位のみならず、日本医師会認定産業医、日本整形外科学会単位が取得できるシンポジウムも企画させていただきました。初学者のための学術講習会、無料の市民公開講座も開催します。内科医、心療内科医、精神科医、整形外科医、歯科医さらにプライマリケアの先生方、すべての医療関係者のご来場を心よりお待ちしております。

記

テーマ：歴史における心療内科の役割

日時：平成25年12月7日(土) 8日(日) 会場：愛知県産業労働センター（ウインク愛知）

基調講演：中井吉英(日本心療内科学会理事長)

特別講演：Stephan Zipfel(ドイツ心身医学会理事長)、幸島司郎(京都大学野生動物研究センター長)、久留宮隆(国境なき医師団)

教育セミナー：天野哲也、乾明夫、大野裕、千葉太郎、中尾睦宏、夏目誠、端詰勝敬、姫野友美、本郷道夫、山本晴義、吉田俊治、渡辺洋一郎ほか

シンポジウム等：現代型うつと職場のメンタルヘルス、プライマリケアと心身医療、運動器心身医療、災害医療、臨床家・産業保健スタッフの集い、歯科・口腔外科医の集い、コメディカルの集い ほか

市民公開講座(日曜)：天保英明、板東浩、芦原睦

後援：厚生労働省、日本医師会、愛知県医師会、名古屋市医師会、日本心身医学会ほか

大会ホームページ：http://18jspim.com

連携室だより

医師交代

☆採用(平成25年7月1日付)

前田基博 泌尿器科医師

☆採用(平成25年8月15日付)

芦刈ゆみ 後期研修医(心療内科)

☆採用(平成25年9月1日付)

木田節 リウマチ・膠原病科医師

☆採用(平成25年10月1日付)

井上明子 産婦人科医師

☆退職(平成25年6月11日付)

伊藤理恵 眼科医師

☆退職(平成25年6月30日付)

押谷佳美 皮膚科部長

木村祐介 泌尿器科医師

吉田真紀子 皮膚科医師(嘱託)

☆退職(平成25年7月31日付)

吉田朋寛 循環器内科副部長

矢野原元 耳鼻咽喉科医師

☆補職(平成25年7月1日付)

坂口憲史 外科部長

兼 消化器外科部長

橋本瑞生 第二外科部長

兼 第二消化器外科部長

山口仁 第四整形外科部長

兼 関節外科部長

水谷哲之 外科副部長

兼 消化器外科副部長

☆転出(平成25年9月1日付)

高村智恵 呼吸器内科医師

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長：加藤 文彦(院長代理)

藤田 芳郎(副院長)

事務担当：今関 信夫・内藤 遵子・金井 久実